

視点

漂流する予算

自公維の賛成でようやく2025年度予算の成立のめどが立った。少数与党の自公が、国民受けを狙った野党の要求に応じる形で妥協にこぎつけたということ、決して褒められたものではない。

まず、新たな歳出として高校の授業料無償化などに充てる1064億円を計上した。私立高校も無償化ということだが、これでは、首都圏などでは中高一貫の私学の人気がますます高まり、公私格差の拡大になりかねない。

また、歳入面では、所得税の課税最低限を年収160万円に引き

上げるのに伴い、6210億円の税収減を見込んだ。しかし、これも高所得者のほうが、減税額が多くなると困るので、基礎控除の額を年収に応じて変えてみたりして、税の公平という面から見て問題の多い改正になっている。いっそ給付付き税額控除でも検討したらと言いたくなる。

社会保障予算も少数与党のため翻弄された。まず、高額療養費の上限引上げについては患者団体の反対もあり再検討となった。一方で、維新の提案でOTC類似薬の保険給付除外が今後検討されるこ

とになった。

社会保障予算については、高齢化の伸び分に収めるという上限があるのでもいつも四苦八苦して予算案を編成しているが、こんなに簡単に数千億単位の予算が動くのなら、歳出改革努力などはむなしくなってしまう。一方で、維新は医療費の4兆円削減で社会保障料の負担軽減を図ると言っているが、それでは、医療や介護従事者の賃金引上げは認めないということなのか。国家財政の基本である予算が漂流しており、このままでは危険水域で沈没しかねない。

社会保険旬報

目次

No.2958 2025年3月21日

視点

漂流する予算 3

座標

高額療養費の見直しを全凍結
訪看STへの指導監査を強化 4
高齢者施策の検討の方向性を議論
7年度国民負担率は46.2%と推計 5

レコーダ

三保連が合同シンポを開催
8年度診療報酬改定へ提言
包括的な引き上げを要望 6

動向

医療保険制度改革や年金制度改正など
重点施策を説明
一令和6年度厚労部局長会議（下） 10

論評

基礎年金のあるべき姿
一字義どおりの制度運用が基本
喜多村悦史 22

全世代型社会保障への道筋¹⁶

問題を先送りしない超党派の取組みを
山崎泰彦 32

随想一視診・聴診

公務員さんはいいですね
高山哲夫 33

潮流

公私病連が令和6年運営実態調査 34
病院給食改革に周到的準備を 35
医薬品の市場規模は11兆5037億円 36

NEWS

日医の松本会長が骨太の対応で見解
ほか 37

療養の給付の取扱いについて 39

経済スコープ 41

編集室・ワードカプセル 42